

希学園 第413回 小3公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第413回公開テスト 小3国語 解説動画(2026年10月11日実施)	https://vimeo.com/1234641808/8389135e0d

1

① 正門

②

「逢」も可
会 う

③

人工

④

売 買

⑤

「颱風」も可
台 風

2

1 赤 血 球

2

A ウ

B

イ

3

白 血 球

4

ウ

5

ウ イ も の

【完答】

6

I 1

II

2

III

2

3

1 エ

2

A イ

B

ウ

3

お と も だ ち

4

ウ

5

な

6

な か よ く

7

ウ

8

イ

配 点

1 各2点×5＝10点

2～3 各5点×18＝90点

<計>100点

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「正門」は建物などの正面にある出入り口のことである。②「会う」は人が顔を合わせることを。「合う」は二つ以上のものがぴったり一致すること。「答えが合う」や「意見が合う」などの使い方がある。

③「人工」とは「人が作ることを」「人の手が加わったこと」という意味である。反対語は「自然」や「天然」である。「ある国や地域に住んでいる人の数」という意味の「人口」とまちがえないようにしよう。④「買売」としないよう気をつけよう。「売り買いする」とおぼえておくとういだろう。⑤「台風」は熱帯低気圧が発達し、強い雨や風をもたなつて南の海から北上してくるものである。

② さとうかよこ 『科学大好き文系先生のゆるつと科学を楽しむ本』

1 血液の中で赤いのはなにかと考えて本文をたどると、①の直後の一文に「①が」赤い理由」が書かれていて、さらにその次の一文では「血球のほとんどが赤血球」とあることから、赤血球のえいきようで血液の色は赤色になっているとわかる。

2 A ヒトの血液の話 ↓ A ↓ イカやタコの血液が青色である話という流れになっており、話題をかえるはたらきをする「ところで」がはいる。

B 病原体を食べて殺したり、からだの中の死んだ細胞を食べてそうじしたりする ↓ B ↓ いちどせめこんできた異物を記録もするという流れになっており、白血球のはたらきをならべているので「そして」がはいる。

3 ②よりあとで「病気の原因になるものからからだを守る」ものはなにかと考えて本文をたどると、次の段落で白血球のはたらきがいくつか説明されていて、そのなかに「病原体が入ってくるとすぐにかけつけそれらを食べて殺す」とあるので、「病気の原因になるもの」からからだを守っているのは「白血球」とであるとわかる。

4 ③の直前に「病気の原因になるものからからだを守る」とあるので、このイメージに合う選択肢をえらぼう。病気の原因になるもの(＝病原体)はからだにとってよくないもの(＝)であり、それをたおしたり殺したりすることがからだにとってはいいこと(＝)になるので、それが読み取れるウ「病原体をやっつけ、戦士」が適当であるとわかる。

5 「病原体」がからだに入ってくると白血球が「食べて殺し」てしまうことから、「病原体」はからだにとってよくないもの(＝)であるということがわかる。からだにとってよくないものとは具体的になにかと考えて本文をたどろう。

6 I 第三段落に、ヘモシアニンにふくまれる銅と酸素がくっつくことで青色(ヒトの血液とはちがう色)になるとあるので、正しい。

II 第一段落に、血球のほとんどが赤血球で白血球と血小板はわずか1%とあるので、正しくない。

III 本文うしろからの二段落で白血球のはたらきが説明されていた。その中に「せめこんできたことのある異物を記録」とあり、これは白血球の役目だとわかるので、正しくない。

③ いうとみく 『こてんちゃんがきた!』

1 こてんちゃんががつこうにもつてきてはいけないうものをもつてきているのを、やすしくんがこれみよがしに注意をしている場面である。「うちわ」などに対してやすしくんがうらやましいと思つて描写はないのでア「くやしがつている」は不適当である。またやすしくんはみんなの聞いているところてこてんちゃんのことを注意しているのてイ「思いやつている」も場面合わない。そしてこの場面では、やすしくんはこてんちゃんとはまだ会つて間もないので「同じ物事が続いてあきていいる」という意味のウ「うんざりしている」も不適当である。

2 A こてんちゃんはみんなのことを「こやつら」と言い、またそれをせんせいから注意されていることから、こてんちゃんのいかたや態度が「えらそう」であつたとわかる。

B せんせいはこてんちゃんにやさしく注意をしたあと、みんなに対して「こやつら」に代わるよいいかたを聞いている場面なので、「にっこり」をいれるのが適当である。「げらげら」は大声を出して笑う様子をあらわしたことで、「にやにや」はあまりよくない場面に使われることが多いので、今回の場面には合わない。

3 こてんちゃんがみんなのことを「こやつら」と言つたのに対して、せんせいが「②に」「こやつら」というのはよくありませんよ」言っている。せんせいがみんなのことをどのよう、言っているかと考えて本文をたどると、「『こやつら』ではなくて、『このひとたち』のほうが、おともだちにとつてもちのいいいかたですよ」とあることから、「おともだち」と呼んでいるとわかる。

4 ③の前でこてんちゃんは「こやつら」といういいかたをせんせいから注意されていた。それに対して「そうなのか?」と言つて目を大きくしていることから、こてんちゃんはせんせいの言つたことにおどろいていいることがわかる。「驚きや感心、あきれて目を大きく見開く様子」をあらわす「目を見張る」ということばも合わせておぼえておこう。

5 こてんちゃんをはじめは「こやつら」というよくないいいかたをしていたが、あおきさんやせんせいから「このひとたち」といういいかたを教へてもらつてすぐに言うようになった。このことから、「態度や性質がひねくれていないさま」という意味の「すなお」ということばがこの場面では適当であるとわかる。

6 「みんなといっしょに、おべんきようしたりあそんだり、いろんなことをして」こてんちゃんとみんなにどうなつてほしいとせんせいは思つているのだろうか。いっしょにいろんなことをすることによりみんなとこてんちゃんの仲が深まるはずだと見当をつけて本文をたどると、せんせいがこてんちゃんをみんなにしようかいしている場面で「あたらしいおともだちをしようかいします。『からすまこてん』さんです。なかよくしましう」と言つていいることから、せんせいはこてんちゃんにはみんなと「なかよく」なつてほしいと思つていいるのだということがわかる。

7 こてんちゃんのまわりにあつまつてきて、みんな口々にすんでいるところや「はね」、「げた」、「うちわ」のことを聞いていることから、こてんちゃんのことにとてもきようみをもつていたことがわかる。

8 「わんさか」とは「たくさんの人やものが一カ所に集まつていいる様子」をあらわす擬態語である。「わんさか」は口語体(話しことばに近い形の表現)であり、物語文ではこのような表現がたびたび出てくるので、日ごろから意味がつかめないことばに出会つたら大人に聞くなどして、知つていいることばをふやす努力をしよう。